令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2学年は、目標値を上回ることができなかったが、昨年度に比べて、目標値との距離が近くなった。年間を通して学習する習慣が身に付き、数値を上げることができた。
- ・ 第3学年は、目標値を上回ることができなかったが、昨年度に比べて、目標値との距離が近くなった。年間を通して学習する習慣が身に付き、数値を上げることができた。

(2) 課題

- ・ 1学年は、全国平均・区平均を下回っており、定着率が低いといえる。本校授業改善プランを基に授業改善を確実に進めていく。
- ・ 2学年は、全国平均・区平均を下回っており、定着率が低いといえる。本校授業改善プランを基に授業改善を確実に進めていく。
- ・ 3学年は、全国平均・区平均を下回っており、定着率が低いといえる。本校授業改善プランを基に授業改善を確実に進めていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎と活用の両方で、全国・区平均、をやや下回っている。各4領域においても全国平均を下回っている。活用は目標値と同程度に達している。 (第1学年入学時)	/	/
第2学年	前年度に対して標準スコアは高くなっている。基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値をやや下回っている。エネルギー領域は全国平均程度であるが、粒子、地球領域では全国平均をやや下回り、生命領域では全国平均を大きく下回っている。 (第2学年時)	基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値をやや下回っている。また、各4領域においても全国平均を下回っている。 (第1学年入学時)	/
第3学年	前年度に対して標準スコアは高くなっている。基礎と活用の両方で、全	基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。ま	基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。また、各4領域においても

	国・区平均、目標値をやや下回っている。また、粒子領域は全国平均程度であるが、他3領域においても全国平均を下回っている。 (第3学年時)	た、各4領域においても全国平均を大きく下回っている。(第2学年時)	全国平均を大きく下回っている。(第1学年入学時)
--	--	-----------------------------------	--------------------------

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国・区平均、目標値を下回っている。	目標値には達しているが、全国・区平均、を下回っている。	全国・区平均、目標値を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均程度であるが、目標値には達していない。	全国・区平均、目標値を下回っている。	全国・区平均程度であるが、目標値には達していない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国・区平均、目標値を下回っている。	全国・区平均、目標値を下回っている。	区平均程度であるが、目標値には達していない。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視覚的に理解しやすいICT機器を活用した教材を開発し、毎時間の復習により知識の定着を図る。 観察・実験によって、生徒に技能の体得させる機会を増やす。	探究の過程を通して自分の考えを整理し、表現する時間を引き続き多く取り入れる。実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。	教科書の要点まとめを用いた復習課題により、単元の流れや授業のねらいを意識させ、主体的に授業に参加させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視覚的に理解しやすいICT機器を活用した教材を開発し、毎時間の復習により知識の定着を図る。 観察・実験によって、生徒に技能の体得させる機会を増やす。	探究の過程を通して自分の考えを整理し、表現する時間を引き続き多く取り入れる。実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。	教科書の要点まとめを用いた予習復習課題により、単元の流れや授業のねらいを意識させ、主体的に授業に参加させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>視覚的に理解しやすいICT機器を活用した教材を開発し、毎時間の復習により知識の定着を図る。</p> <p>観察・実験によって、生徒に技能の体得させる機会を増やす。</p>	<p>探究の過程を通して自分の考えを整理し、表現する時間を引き続き多く取り入れる。</p> <p>実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。</p>	<p>各章末においてレポートの執筆と章全体を通しての振り返りを行わせ、自分自身で学習してきた課程を把握することができ、自分自身で学びを振り返ることができるように考えさせる。</p>